# RECOVERY

## ISLAND OKINAWA

リカバリーアイランド沖縄

Vol. 26

PLEASE
TAKE IT FREE
ご自由に
お持ち帰りください
無料

## 依存症治療最前線

「多様化する依存症問題に対応する
人材育成事業について」

NPO法人　回復はどこにでもある　武澤　次郎

「アディクション回復支援」の
どうしようもない違和感

東海大学健康科学部　宮永　耕

## 仲間の声

「Message」　～メッセージ～

琉球GAIA OB　春翠

Photo by Takkaja.com

# RECOVERY
ISLAND OKINAWA

リカバリーアイランド沖縄は、
依存症から回復したいと願う人たちに、
希望のメッセージと様々な選択肢で、
「あなた」を応援する季刊誌です。

## CONTENTS


**依存症治療最前線**

「多様化する依存症問題に対応する
人材育成事業について」
ＮＰＯ法人回復はどこにでもある
武澤　次郎

「アディクション回復支援」の
どうしようもない違和感
東海大学健康科学部
宮永　耕

**仲間の声**

「Message」～メッセージ～
琉球GAIA　ＯＢ　春翠


10月末、沖縄のシンボルである首里城が火災にあい、そのほとんどが失われてしまいました。琉球GAIAでも何度も訪れ、当たり前のようにあったものを失う喪失感を感じショックを受けています。しかし首里城はこれまで何度も戦禍や火災で喪失し、その度多くの人の願いや協力があり再建されてきました。きっと今回も以前の姿を取り戻すと信じています。首里城の再建を信じることと同様に利用者の方々の回復を信じ、私たちもより良いサポートが出来るよう頑張りたいと思います。

Photo by Takkaja.com

# 多様化する依存症問題に対応する人材育成事業について

武澤　次郎
ＮＰＯ法人
回復はどこにでもある
副理事長

依存症からの回復のすばらしさをもっと世の中の人に知ってもらいたいと考えて、2017年に法人を設立しました。春と秋の依存症啓発セミナーを開催するとともに、依存症者の方の支援を専門とする相談支援事業所フェリシダを開設して、200人以上の依存症の方の支援をしています。

## はじめに

依存症回復支援施設のスタッフに役に立つような研修は、ほとんど行われていないと思い始めて、25年ぐらいになりますでしょうか。そして、誰もやらないのなら、私たちでやろうと考えて、やり始めて、25年ぐらいになりました。

この25年に依存症の分野も大きく変わってきています。依存症の種類もアルコールから薬物、ギャンブル、買い物、恋愛など、多様に増えています。加えてほかの身体的、精神的病気との合併や複合的に問題などもあり、昔のやり方では通用しないことを実感しています。

関係しなければならない人や機関も医療や福祉分野だけでなく、保健分野、司法分野、ホームレス支援の分野などにも広がっています。当たり前のことですが、依存症も時代とともに変わっていきますから、25年前と同じような研修をしても意味がないものになるでしょう。

この10年をみても依存症問題を取り巻く環境も大きく変わってきています。例えば、依存症回復支援施設の経営状況は、障害者総合支援法の拡がりから、障害福祉サービス費の収入によって、施設の運営をしているところが増えています。

25年前まではほとんどが、寄付と限られた本人や家族などの負担で運営していたことを考えると隔世の感がします。依存症回復支援施設もだいぶ増えてきました。利用者も増えて、スタッフも増えて、そして収入も増えてきています。依存症回復支援にかかわる人も、ますます増えていくことでしょう。

そして、アルコール健康障害対策基本法、ギャンブル等依存症対策基本法、再犯防止推進法などの法律ができている中で、環境の変化はまだまだ続いていくと思います。

私たちの法人は、お金も人も少ないですが、そうした弱みを強みに変えていけるように、依存症回復支援にかかわる人たちの緩やかなネットワークと顔の見える関係性を広げていきたいと思っています。

## 研修事業の概要

### 検討委員会

検討委員には、福祉、保健、医療、看護などの分野の専門家の方々と全国の依存症回復支援施設のスタッフにも加わっていただき、事業の内容について多角的に検討して企画しています。特に地方で活動している依存症回復支援施設の場合は、その地域の事情や特徴にあった内容にしないと現場に役に立たないことになってしまいます。

また、いろいろな分野の方がかかわることが多い依存症回復支援施設スタッフには、多くの関係者とつながっていくことが大事になります。医療や関係機関などとの横のつながりができるようにしていくことも今回の研修の大切なことだと考えています。

検討委員の多くが、２００９年の研修事業から関わっていただいている専門家の方です。また、多くの方が仕事だけでなくマックやダルクなどの依存症回復支援施設の運営にも協力されています。この依存症全国研修事業だけでなく、多くの学会などにも参加されて、多くの関係者と協力関係を持たれています。当然ながら、豊富な経験と知識をお持ちの方です。

２００９年からの研修事業などを通して、多くの依存症回復支援施設の関係者にもお会いして、お話をしているかと思います。

また、それぞれの開催地域の実状を知っている方にも検討委員会に参加していただいています。地域の実状に合わせて、研修内容を工夫して変えていきたいという趣旨もあります。

個人的には、こうした機会を通して、それぞれのご協力いただいた回復支援施設の宣伝や日頃できないような企画をしていただいて、楽しんでいただけるようなものになればと思っています。

### 研修の内容

一日目は、午後から４時間ぐらい、二日目は、一日通して７時間くらいの時間配分です。

ここからは、大阪地区での研修内容をベースに記載しています。

一日目の具体的内容としては、まず依存症に詳しい精神科医師からの基調講演「アディクションの拡がり」をお願いしています。ここでは、最近の依存症の広がりについて、お話していただくようにお願いしています。

続いて、実践報告として、それぞれの地域から熱心に取り組んでいる方をお招きして、お話しいただいています。地域の実情を知っていることも、支援していく上で大切です。また、地域の連携を深めていくには、やはり顔を覚えられる関係を作っていく事も大事でしょう。

一日目の最後は、「支援スタッフのメンタルヘルス」をテーマにした講義をお願いしています。多くの依存症回復支援施設に共通している問題として、支援スタッフの燃えつきなどがあります。基本的に知識を知っていることで、スタッフ自身のメンタルを守ることになればと思っています。

二日目の最初は、「アディクションの背景にある行きづらさへの理解」をテーマにした講義をお願いしています。依存症の知識も大事ですが、依存症の背景として隠れているご本人の生きづらさの理解がないと表面的な支援になってしまうのではないでしょうか。

続いて、二つのグループワークを用意しています。まずは、「実践の中での課題を考える」として、それぞれの参加者が抱えている課題について、参加者同士で考えていこうというものです。参加者同士の自己紹介も、ここで行っていただき、今後の連携に役立てていただければと思っています。

次のグループワークは、「モデル事例から考える」をテーマにしています。ここでは、こちらの用意した依存症回復支援施設でありがちなエピソードをもとにした事例について、参加者同士で考えていこというものです。具体的な支援について、自分自身では気づきにくい支援アプローチが開けるかもしれません。もちろん、参加者同士の関係の深まりにつながればと思っています。

研修の最後は、シンポジウム「これからの依存症者支援に期待すること」になります。ここでは、地域において熱心に依存症回復支援施設と関わっている関係者の方にお集まりいただき、普段は言いにくいような注文もざっくばらんに話していただきたいと企画しています。風通しの良い関係なくして、連携が深まることはないでしょう。

研修が終わった後も、感想などをお話していただく時間も取れればと思っています。今後の同じような研修のためにアンケートへのご協力もお願いしています。

## おわりに

依存症者回復支援施設のスタッフ向けの研修がほとんどない中で一回の研修で、何が出来るのか、正直なところ出来ることはそれほど多くないと思います。

将来的には、依存症回復支援施設の全国組織のようなものができるのかもしれません。そうした大きな組織によって出来るものもあると思います。逆に、私どものような小さな組織でも、創意と工夫をしていけば、依存症回復支援施設のスタッフに少しでも、お役立てるような研修が企画できるようにも思っています。研修会参加者と講師、関係者や検討委員との間でも、ゆるやかなネットワークと顔の見える関係性は、ある意味で相互支援グループにつながっていくものにならないでしょうか。

日ごろから、依存症者の回復支援にお悩みの方や苦しんでいる方がいましたら、今回の研修でお会いできることを楽しみにしています。

（この掲載内容については、法人や研修事業を代表しているものではなく、あくまでも個人的な思いをまとめたものです。）

**多様化する依存問題に対応する人材育成研修開催スケジュール**

| | |
|---|---|
| 佐賀地区 | 日時　2019年12月14日（土）15（日）<br>会場　佐賀県総合福祉センター |
| 金沢地区 | 日時　2020年 1月18日（土）19（日）<br>会場　石川県教育会館 |
| 那覇地区 | 日時　2020年 2月 8日（土）9（日）<br>会場　那覇保護観察所大会議室 |
| 札幌地区 | 日時　2020年 2月29 日（土）3月1日（日）<br>会場　カナモトホームほか |

各会場とも1日目は13:00～17:00　2日目は9:30～16:50の予定です。カリキュラム、講師、時間配分については、今後の検討により変更する場合があります。

# 僕は薬物依存症者です。

## 7年前の2012年1月16日、依存症リハビリ施設に入所するために沖縄に来ました・・

この”告白”をしてから約3ヶ月が過ぎました。この話しをするのに7年の月日がかかりました。

今だに薬物の夢を見たり、使用欲求が出る事はありますが、7年という間、薬物を経ち続けられている事は奇跡だと感じています。

とてもとても有り難い事だと。

沖縄の琉球ガイアに来て、一年半の入寮を経て二年間、沖縄で学童保育の支援員として働いた後、僕の夢だったプロミュージシャンの道に入ることが出来ました。

順風満帆に思えた音楽活動でしたが、それでも沢山の挫折や葛藤があり、辞めていたギャンブルに逃げた時期もあって、薬物のスリップも危ない日々もありました。

そんな中、やはり支えてくれたのが施設の同期の仲間や同期のスタッフでした。

依存症者ならではの葛藤や悩みを打ち明けられる仲間、モヤモヤの気晴らしにジムやサーフィンに付き合ってくれる仲間、電話で近況報告して話せる仲間、全国ツアーで応援しにきてくれる仲間、そんな仲間・スタッフの存在が今の僕を支えてくれています。

### 『俺たちは病気だから。』

この一言を深く分かってくれる人がこの世界にいる事が僕たちにどれだけの救いをもたらすか。どんな自分も受け入れてくれる帰る場所があるからこそ、ずっと伝えたかった”告白”が出来たんだと思います。

告白後、沢山の反響を頂きました。特にフェイスブック上でのみんなの声が背中を押してくれましたし、これでよかったんだと強く感じさせてもらえました。

僕の告白を受けて沢山の方が勇気をもらったと伝えてくれた事や、テレビや新聞の取材を受けて、その反響もあり、僕にしか出来ないメッセージを届けられた事を嬉しく思いました。

今、7年前の自分と比べて大きく変わった事は、自分の幸せを薬物・親・友達・恋人・環境のせいにしない事を決められた事です。

つまり、自分の幸せは自分で決める。自分の事は自分で幸せに出来るようになった事が何より良かったと感じています。

依存症だからこそ苦しい思いをする事は今もあります。これからもそうかもしれない、でも依存症にならなかったら沖縄に来る事はなかったんですね。

沖縄に来たからこそ出逢えた、仲間、家族、ファンのみんな、変われた自分に出逢う事はありませんでした。

その全てが沖縄に来なければ無かったと思うと本当にゾッとします。

これから僕は、これまでの実体験を通した歌、講演、メンタルトレーニング、全ての僕の活動を通して、誰でもどんな辛い状況にでも幸せのタネを見つけて育てて行ける事を伝えて行きたい。

綺麗事じゃなく、本心で、依存症という境遇の上にも花は咲かせられるし、幸せを掴み取る事は必ず出来ると僕は思います。

*Beautiful life／春翠 より抜粋*

いつだって言い訳で武装して
リアルな自分を隠し続けた
どんだけ突っ走ったって
変わらない過去の物語
自分を大切にって言葉
僕は分からなかった
目の前の人と向き合う意味も
分からなかったね
苦しくてもがき続けた
そんな日々越えたからこその今
やっと手放す事が出来た
きっと
僕は生きてて良かったんだね

Beautiful life
父さんの様な揺るがない愛を
Beautiful life
母さんの様な優しい心で
Beautiful life
弟の様に誠実で在りたい
家族写真心に抱き
今日も僕は生きる

【https://youtu.be/NP_-4w6Jc1E】

## Message
～メッセージ～
**春 翠**

### 『君も必ず幸せになれるよ』

入寮前の面談時に施設長が言ってくれた言葉です。

その言葉を信じてここまで来れた事に感謝しています。施設長、スタッフ・仲間のみんな本当にありがとうございます！

そして、ずっとずっと見守り続けてくれた両親、弟、沖縄で出来た3人の家族、本当にありがとう。

そしてこれからもどうぞ、よろしくお願いします！！

僕は今、この上なく幸せです。

テレビで放送された内容や
琉球GAIAの様子をご覧になることが出来ます。

# 「アディクション回復支援」のどうしようもない違和感

宮永　耕
東海大学健康科学部
社会福祉学科准教授
横浜マック理事長

## 「依存症」対策というトリック

「依存症対策」が注目されている。今この時期はその転換期でもあり、日本における対策が具体的に動き出した時期として、後に記されることになるのかも知れない。これまで、マスコミにクローズアップされるような事件の度に問題が指摘されてはきたものの、依存症対策は実際には民間施設等への丸投げを超えて進展することはなかった。物質使用障害は、アルコールという合法薬物の過度の使用を対象とする厚生労働による成人保健・健康問題対策と、法務省による法規制対象の非合法薬物使用者に対する刑事司法としての薬物乱用対策とに分断され、さらには青少年問題として警察庁や文部科学省が関与する各担当部門とも連携はなく、それぞれ独自の取り組みが続いてきた。依存症問題として一貫した取り組みを求める声に政策が対応し、変化が実現していったという実感は、ほとんどない。

上記の状況に変化が現れてからさほど時間は経っていない。２０１６（平成28）年度に１．１億円だった厚労省の当該予算は、翌２０１７年度には５．３億円余りに増大したが、その際名目はアルコール依存症対策から「アルコール・薬物・ギャンブル等」を併記した「依存症対策」へと書き変えられた。回復を目指す依存症本人・家族、治療機関従事者を含む支援者らの期待とは別の次元で、直接には経済振興策であるカジノ解禁を柱としたＩＲ推進法の成立とセットに、前ぶれなくギャンブル問題も依存症の一つと宣言して物質使用障害と同様の扱いに強引に押し込んで対策の必要性を説明した結果、もたらされたものだった。

これに先立つ２０１３（平成25）年に、アルコール健康障害対策基本法が成立している。その過程ではアルコールの社会的多面性を反映し、依存症対策より広範囲の「健康障害」を対象に、酒造メーカーから販売事業者、行政は内閣府、厚生労働省、法務省、財務省、国土交通省、文部科学省、国税庁、警察庁及び自治体の関係部署さらにはアディクション関連学会及び支援者等で構成する職能団体と問題を担う当事者や家族団体とが立場を超えて一致邁進すべきという、議論を排した法制定運動が展開した。また、「過度でない」範囲のアルコール摂取の排除は税収の低下につながるため目標から除外されたように、運動は参加を求められた関係者全体の利益の共通部分に集約されたことで基本理念の共有に留まり、結局この法律が何を実現するかは自治体に委ねられた推進計画の中身に先送りされた。この立法運動は、政治的要請からそのまま前述のギャンブル対策に反映された。２０１６（平成28）年末に成立した「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」、通称ＩＲ推進法は、附帯決議でカジノに限定しない「ギャンブル等依存症患者への対策を抜本的に強化する」と明示したことで、わずか2年足らずの間に「ギャンブル等依存症対策基本法」の成立を促した。その経過は、政府主導のスケジュールによりカジノ開設予定から逆算した異例の速さで進み、カジノ開業がなぜ経済的振興策たり得るか、またギャンブル依存者の増加や深刻化をもたらすのか、という本質的検討は置き去りにされ、開設を目指す地域では反対する住民団体との間には利権の思惑と感情的な反対論とが渦巻いて緊張関係が続いている。

## アディクションは皆同じ、なのか

ギャンブル問題は、「プロセス依存」として説明されたことでインターネット依存、ゲーム障害問題へと意識を向かわせたが、そこには近年急速に拡大するゲーム業界の発展という社会環境要素の影響が大きい。借金や買い物・クレジットカード依存も、それらの普及と利用拡大を背景として問題化してきている。物質摂取を介在しない特定の行為へののめりこみは、脳内物質の分泌や機能変化の同質性といった生理的機序の面からの説明とは別に、依存の事実自体は健康破壊や触法行為とは見なされず、生活上の他の機能との関係で要援助性が析出する。そのため問題は物質使用障害とは異なる輪郭を持ち、依存症対策を理由とした対象の排除は遊技業界や公営競技の営業権と対峙して困難であり、現実的には曖昧な「線引き」の問題となる。

また「関係依存」が全ての依存の根底に存在するという、かつての単純化された「信仰」は、社会的関心の推移に任せたあらゆる現象の解釈に都合よく利用されることを避けられない。この30年間に広範に広がる暴力被害と加害のそれぞれに関与する専門家の言説は影響力を強め、虐待やＤＶという概念によって多くの立法をも成立させてきたことは厳然たる事実である。しかし２０００年を過ぎ、「共依存」やACが語られる機会は急速に減少した。その解説が出尽くした時点で既に社会の関心は「発達障害」へと移行しており、アディクション＝嗜癖は問題を読み解くキーワードとしては陳腐化していった。

その後現在に至るまで依然として概念の濫用は続き、万引き依存や性行為依存などは精神医学的な解説を纏って再登場することで脚光を浴びる一方で、現在でもペット依存やアイドル依存、そして日焼け依存、仕事依存と続き、何でもありの説明手段、感覚的な合意形成装置として社会に浮遊し続けている。

## 回復者運動と社会サービス

現在、制度に位置づけられ役割を担う一部の回復者運動は、かつてのアルコール依存・薬物依存にでなく、連携する行政の意向により近い「依存症対策」に協力すべく要請される。利用者数の実績が給付収入につながるサービスプロバイダとなった回復支援施設では、当然利用者の安定的確保を対象者の範囲拡大によって対応しようとする。利用する依存者自体が重複した問題を抱える例が増加していることを理由に、12ステップを頼りにこれまで活動してきた経験を物質使用障害から上記の「プロセス依存」や「関係依存」にまで広げて対応しようと模索する。その戦略は、地域の自助グループへの橋渡しという役割を物質使用障害以外にも同様に行うことを基本にしており、自助グループの代わりにＮＰＯ等一般民間団体によるサービスもまた橋渡し先の対象となる。

しかし、筆者は物質使用障害とその他の依存症とされる問題を同質の支援で対応することには疑問を感じている。というのも、約20年前に「ギャンブル依存症」を対象として12ステップに沿ったプログラムを行う施設を回復者とともに始めたが、現在この間の利用者実態が教えてくれたのは、コントロール困難なギャンブル問題の背後には無視できない多様な条件の違いが存在することであり、それはギャンブルが止まった後の問題として明確になっていくという事実だった。

強迫的なギャンブルへののめりこみを経験して施設にたどり着いた人々は、そこに至るまでの生育過程に既に幅広い違いを内在し、かなり明白な発達の偏りを幼少期から抱えている人が多く含まれることもわかってきたが、福祉的援助対象として見れば辺縁的境界例に属する軽度知的障害がある人では、集団での分かち合いや感情の言語化による「回復」による効果は上がらず、全員参加型ではかえって居場所を狭めていかざるを得なかった。それら利用者は独自のペースで取り組めるスポーツや趣味の活動への参加がギャンブルへの強迫性からの出口となり得ることや、個別プログラムは不公平さへの不満より仲間の感覚を育てることにも役立った。ギャンブルに起因した債務問題がクリアになれば生活再建が可能になる人も当初の「依存症」には含まれ、同じ

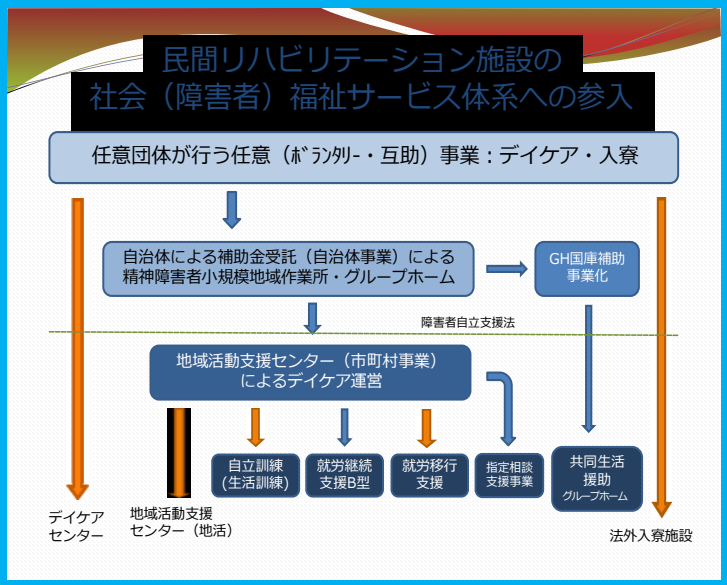
「病気」という言葉の代わりに丁寧なアセスメントに基づく個別支援を、共同生活も活用しながら提供する方向へ方針転換することを促した。

個別支援の前提となるアセスメントには当然時間も手間もかかるが、同時に自らの施設援助の限界設定を容易にし、他の支援機関・事業所との連携を進める積極的な契機となった。ただし、行政的な法制度に合わせない独自な支援は、その仕組みの外側で補助金・給付金以外の財源によって運営されざるを得ず、サービス利用費の当事者負担の導入を避けられず、その額を低く抑えるためには別途安定した寄付金・献金収入が不可欠になることを意味した。現在12ステップグループへの参加は、現在個別支援として提示される利用可能なメニューの一つとなっている。

## 改めて、原点は何か

これまで「依存症」と見立てたコントロール障害における共通性は病気の症状として説明されてきたが、「誰でもなり得る病気」である以上、そこでは依存状態に至るまでのプロセスと固有条件の差異は相対的に軽視されざるを得ず、その状態からどのように回復するかという出口部分に関心を集中させてきた。既にコントロール障害が生活を脅かしている以上、いかに不健康な使用を止められるかに収斂していくことは当然だが、それでも反面で多様だと認めた依存者が皆同じ経過をたどるはずもないので、指摘される固有の脆弱性やリスク要因も支援に重要な情報と考えるべきだろう。ギャンブル問題では実際には自然寛解例も多く、多様な転帰の例が存在するが、物質使用障害を基にしたアディクション医療のモデルはそれを語らない。自然寛解した事例は問題解決の場面を治療者に見せることが稀であるだけでなく、治療者の存在意義を損ないかねないから、医療機関では歓迎もされない。12ステップ共同体は、決して自らの方法を絶対視したり他の方法の有効性を否定したりしないが、同時に良くも悪くも他の方法による回復例に関心を持たず語らない伝統をも持つので、結果として他の方法を無視したことと同じに見える。それでもシンプルで費用もかからず、地域の中で誰もがいつでも利用できる、それらだけで回復を求める人には今も有力な選択肢となり得ることに疑いはない。

筆者自身もＮＰＯとなった回復支援施設の運営団体に属し、これまで述べた疑問の矛先を自分に向けて呻吟する毎日を過ごしている。30年前に比べ、膨大な量の情報と誤解とが我々の間にも流れ込んでくる中で、深呼吸して自らの一番ふさわしい役割を確認したい。それとの関係で、どこまで社会サービスとして外部からの期待に応え得るのか、制度的にも財政的にも運営の厳しい現実に立つからこそ、Ｍｉｓｓｉｏｎから見分ける「賢さ」が求められているように思われてならない。




## NPO にとっての Mission Statement

- NPOは利潤を上げるためではなく、それぞれの組織が目指す目標の実現のために活動する.
- NPOのミッション・ステートメントは「具体的手段」と「それによって目指す具体的な社会変革」のどちらか、あるいはその両方を言葉で表現したもの.
- NPO経営論では、継続的なNPOを目指す場合、社会状況の変化に対応して事業内容を変革していく為にも、後者をミッション・ステートメントに含むことが好ましい.
- 「社会に存在しているニーズ」「自らの組織が他に比して卓越している部分」「自らの組織が信じる価値観」の三つがミッションの中に包含されていなければならない.

「社会生態学者」ドラッカー（Peter F. Drucker）

# 琉球ＧＡＩＡの家族支援プログラム

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています。私たち琉球GAIAでは「家族と共に回復する」と言う理念のもと、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。
依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事。ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションを行えるようになる事、依存症から回復出来るという事をご家族が信じられる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンであり、他の援助者や、治療機関と連携が取れている事も大切にしている事の一つです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

また、グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も大切です。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

また緊急時の対応に関しましても出来る限りのサポートをさせて頂きます。

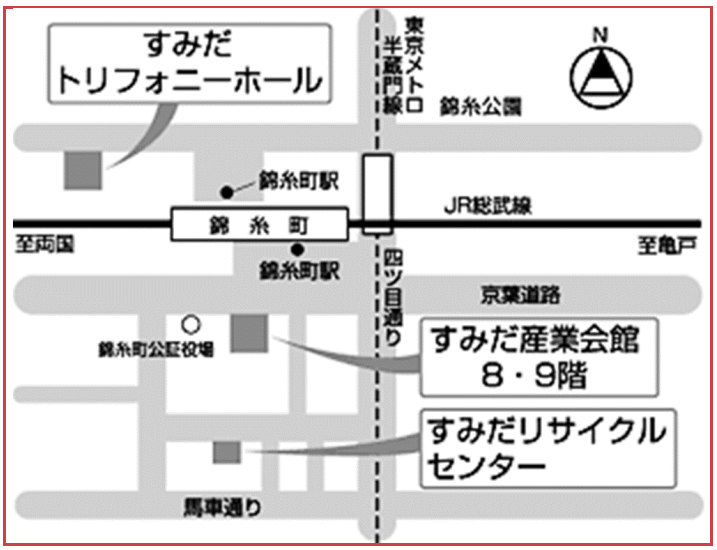
下記の家族会にはどなたでもご出席頂けますので是非ご参加ください。

---

address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館8･9階
〒130-0022　東京都墨田区江東橋3-9-10　TEL:03(3635)4351
東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

map




## GAIA家族会

TOKYO

依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えてのセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館
毎月第2土曜日　18時～20時00分
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。
琉球GAIA：098-831-2174

information

## ハイビスカス

TOKYO

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？
場所：東京都港区芝5-18-2　障害者福祉会館
日時：毎月第1土曜日（祝祭日は休み）
　　17時～20時30分（無料）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

## 沖縄家族会

OKINAWA

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県立総合精神保健福祉センター2F
日時：毎月第2第4月曜日（祝祭日は休み）
　　19時～20時（無料）

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

## 大阪家族会

OSAKA

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。元琉球GAIAスタッフを中心として、毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13
　　美容院ルーナロッサビル3F
日時：毎月第2月曜日　17:00～18:30

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

---

琉球GAIAの活動にご賛同、ご支援頂きますれば誠にお手数ですが同封しております振込依頼用紙にてお振込み下さるようお願い申し上げます。なお誠に勝手ながら、献金の振込依頼用紙はすべての方に同封させて頂いています。寄付献金を強要しているものではございませんのでご了承ください。

一緒に、考えよう

# 依存症

のこと。

## 依存症は回復できます。

RECOVERY
ISLAND OKINAWA

2019年 11月発行
発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症
リハビリセンター琉球GAIA
〒900-0024 沖縄県那覇市古波蔵1-18-37
TEL：098-831-2174　FAX：098-831-7174
MAIL：mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター琉球GAIA

【GAIA東日本相談センター】
☎ 03-5800-5121

【GAIA西日本相談センター】
☎ 06-6433-5111

【沖縄ケアセンター琉球GAIA】
☎ 098-851-3535

フリーペーパー（無料）です、ご自由にお持ち帰りください。